**街頭演説例　（原発）**　　　　２０１３年１０月３０日　　　　　　　　日本共産党石川県委員会

ご町内のみなさん。日本共産党の○○支部（後援会）です。ご当地をお借りして、訴えさせていただき

ます。ご協力をよろしくお願いします。

みなさん、福島第一原発で大量の放射能汚染水が海に流出している問題は、解決するどころか日々悪化し拡大する重大事態になっています。ところが、安倍首相は「汚染水の影響は完全にブロックされている」などと事実をねじまげ、本腰を入れた対策をとらないまま、原発の再稼働や原発輸出の暴走をエスカレートしています。こうした対応に、国際社会からもきびしい批判の声があげられています。

はじまった臨時国会では、志位和夫委員長が代表質問で、笠井あきら衆議院議員が予算委員会で、安倍首相の汚染水問題の認識をきびしく批判し、「放射能で海をよごさない」という原則をきちんと確立し、東電まかせを改め、危機打開へ文字通り国が前面に立つべきと迫りました。

日本共産党は、非常事態ともなっている福島原発の汚染水問題に対して、政府が事故の「収束宣言」を撤回し、非常事態の認識に立って、全責任を負う立場で専門的英知を総結集し、汚染水をはじめとする事故対策を抜本的に改めることを求めます。｢再稼働ありき｣が事故収束の妨げとなっており、「原発再稼働・原発輸出」の政府方針をきっぱり撤回すべきです。原子力規制委員会は、原発の再稼働審査を優先する姿勢をあらため、事故対策を最優先し総力を挙げる事を求めます。

非常事態にある福島原発の現状と、いまなお十数万の福島の人が避難生活を余儀なくされている現実は、原発と人類は共存できない事を示しています。今年の暑い夏も、基本的に原発なしで電気がまかなえることを示しました。そして、唯一動いていた大飯原発の二基も、９月１５日で停止しました。現在は、ひとつの原発も稼働することなく、日本の電力を賄っています。こうした事実は、原発ゼロの日本が可能であることを示しています。みなさん、いまこそ即時原発のゼロの政治決断を行い、稼働ゼロから廃炉に進むこと、急速な自然エネルギーの普及をはかることです。この道こそ現実的で、国民の命と安全、日本の将来の社会の発展に責任を持つ方向ではないでしょうか。

県内では、志賀原発があり、北陸電力は再稼働への強い意欲を示しています。しかし、住民と科学者のねばりづよい調査で、原発周辺の活断層の危険が強く指摘されています。責任ある避難計画も、つくられていません。県民の命と安全への挑戦を許すわけにはいきません。再稼働反対・志賀原発廃炉をもとめる声と運動をひろげ、志賀原発は即時廃炉を実現していきましよう。

全国でも国民の多数が「再稼働」に反対し、「原発ゼロ」を望む国民の声は、さらに大きくひろがつています。草の根の官邸前の金曜日行動は、毎週ねばりづよく続けられ、金沢をふくめ全国に広がっています。また県内の有識者２４名のよびかけによる「志賀原発再稼働反対・廃炉を求める県民集会」が、１１月９日の午後一時半から、志賀町文化ホールで行われます。志賀原発の再稼働反対・廃炉を求める署名運動へのご協力とあわせて、多くのみなさんの県民集会・パレードへの参加をこころからよびかけます。

みなさん、国民的運動で原発推進勢力を包囲し、安倍政権の原発政策を転換させましょう。日本共産党は、草の根の運動とも力をあわせ、再稼働反対・原発ゼロで幅広い国民的共同をつくりあげるために全力をつくします。原発の不安のない、希望ある日本を実現するために、みなさんの大きなお力添えをよろしくお願いします。

最後に、「しんぶん赤旗」のお願いをさせていただきます。タブーを恐れず真実を報道する「しんぶん赤旗」を、この機会にぜひ、お読みください。九州電力の「やらせ」問題をスクープし、国や原子力共同体の闇に鋭く切り込み、原発問題がよくわかると大変注目をされている新聞です。草の根の運動を大きく報道し、共同を広げる新聞としても積極的な役割を発揮しています。毎日お届けする日刊紙は三、四〇〇円、毎週お届けする日曜版は八〇〇円です。この機会にぜひ、ご購読いただきますようお願いをしまして、ご当地での訴えを終わらせていただきます。ご協力ありがとうございました。